

母乳育児のめざすところ

最近の周産期の学会などで、胎児・新生児・乳幼児期間の「栄養」と「保育」は、子どもたちの将来の脳の発達にも密接に関係していること、この時期の適切な「栄養」や、両親や家族を中心とする子どもたちへの適切な「保育」が重要であることが強調されてきました。

母乳育児は「ヒトが人間になるための基本的信頼関係を教えてくれる」ものであり、母親と出会うことで、対面的コミュニケーションの第一歩が始まり、母乳育児を行うことはこれをごく自然な形でおこなうことができます。

よそみをしながら授乳は控えましょう

最近の日本の研究で、ながら授乳で育てられた子と授乳に専念して育てられた子に育ちの差があること、ながら授乳で育った子はADHD（注意欠陥多動性障害）や自閉症になる確率が高くなるという報告があります。



授乳しながらであっても、児の顔を見ずに、スマートフォンやTVの画面をみているのは、母乳栄養はしているが母乳育児をしているとはいいいにくい行動です。母乳育児が目指すところは、授乳を介する育児です。授乳はただ吸わせておけばよい、というものではないのです。

授乳中のスマートフォンやテレビをみながらのながら授乳をやめて、赤ちゃんと目をあわせた母乳育児をおこないましょう。